

脳の血管の異常によって起こる病気を総称して「脳卒中」と言います。

その中で、もっとも死亡数が多いのが、脳の血管が詰まることで血液が流れなくなり、脳組織に障害が起こる「脳梗塞」です。

2022年国民生活基礎調査により、寝たきりの原因となる要因のうち20%以上が脳梗塞をはじめとする脳血管疾患であり、発症した患者さん本人だけでなく介護する家族や周囲の方々にも影響する大変な疾患です。

脳梗塞は誰にでも起こりうるものと考え、その発症のリスクや予防対策について知っておくことが重要です。また万が一、脳梗塞を発症した際は速やかに医療機関を受診してください。

脳梗塞は、生じた部位や大きさによって、様々な症状がでます。代表的なものは片側の手足の麻痺や感覚障害、言語障害などです。こうした症状は前触れなく突然起きることがほとんどで、軽症であったり短時間のうちに回復したりしても、すぐに医療機関を受診し診察を受けることが大切です。

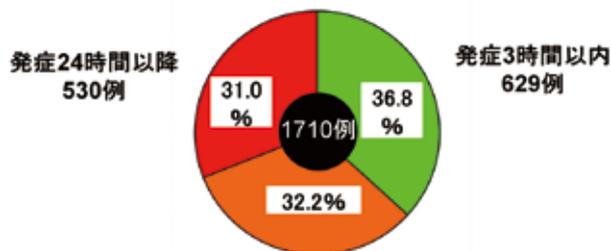
このような症状が出たら脳卒中・脳梗塞の可能性が高いです

- 片方の顔面が麻痺して顔がゆがむ
- 手足の片方だけ力が入らない
- 目の見え方がおかしくなる（視野が狭くなる）
- 人の話が理解しにくくなる
- 字が書きにくい・箸が持ちにくい

特に図に挙げたような症状が急に起きたら、直ちに医療機関を受診してください。

脳梗塞を起こした場合には、発症後早期に当院のような専門病院に受診することで、カテーテルによる血栓除去や、t-PAという強力な血栓溶解薬を点滴で使用するにより、詰まった血管を再開通することができます。しかし、実際にはこれらの治療適応となる発症3時間以内の受診率は全体の30%台に留まっています。

当院過去5年間 入院脳梗塞症例の発症から来院までの時間



- 発症3時間以内の来院割合は増加しているがまだ多くの患者さんが発症後時間が経過して受診している
- 何とか発症3時間以内の来院割合を40%台にしたい

今後、脳梗塞を発症した・もしくは疑われる患者さんのより多くが、早く専門病院に受診して下さるよう皆様をお願いするとともに、医療に従事する側も働きかけを強くしていかなければなりません。

当院過去5年間急性期脳梗塞1710例の退院時状況



- 約40%の患者さんが転院または施設入所が必要となる